

# COP10と経済・社会・環境のバランス： いのちのインフラとしての生物多様性

FASID

第188回 Brown Bag Lunch Seminar

2009年 5月15日 12:30 ~ 14:00

香坂 玲 (こうさかりょう)

(元 生物多様性条約事務局 職員)

名古屋市立大学 経済学研究科 准教授

生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)

支援実行委員会 アドバイザー

国連大学高等研究所 客員リサーチフェロー



# 今日の話

1. はじめに: なごやとCOP10
2. なぜ生物多様性が必要?
3. COPとは?
4. 誘致が決定したCOP10とは?

# 今日の目標

皆さんがこれを言えば成功

なあんだ、そうだったのか  
これが生物多様性ね  
随分 仰々しい言葉だね

もう うちでは  
だいぶやっているね  
ただ、十分に世界に  
伝わっているかなあ

なぜ生物多様性が必要？

# なぜ生物多様性が必要？

皆さんはどう思いますか？

ダイビングを  
楽しみたい！

紅葉の季節の  
ハイキング

昆虫の  
コレクション

なんといっても  
山の幸  
海の幸

# なごや にとって なぜ生物多様性が必要？

ヒートアイランド  
の緩和

集中豪雨での貯水

二酸化炭素の貯蔵

街路樹も地元のもの  
を

食の安全  
材料の調達

廃棄物の循環

# 生態系サービス：人間が生態系から得る利益

## 供給

生態系が生産するモノ

食糧

水

燃料

繊維

化学物質

遺伝資源

## 調節

生態系のプロセスの制御により得られる利益

気候の制御

病気の制御

洪水の制御

無毒化

## 文化

生態系から得られる非物質的利益

精神性

リクリエーション

美的な利益

発想

教育

共同体としての利益

象徴性

赤字で示した項目は、生物多様性がとくに重要なサービス

## 支持基盤

他の生態系サービスを支えるサービス

土壌形成

栄養塩循環

一次生産

# 生態系の劣化は人間生活にどう影響するか

## 豊かで快適な生活に必要な要素

### 生態系サービス

#### 基本的サービス

- ・ 栄養塩の循環
- ・ 土壌形成
- ・ 生物生産
- ・ その他

#### 物質供給サービス

- ・ 食糧
- ・ 水
- ・ 木材や繊維
- ・ 燃料

#### 調節的サービス

- ・ 気候の調節
- ・ 洪水の調節
- ・ 病気・害虫の制御
- ・ 浄水作用

#### 文化的サービス

- ・ 美的文化
- ・ 精神文化
- ・ 教育
- ・ リクリエーション

LIFE ON EARTH - BIODIVERSITY

#### 安全性

- ・ 個人の安全性
- ・ 資源の安全性
- ・ 病気からの安全性

#### よい生活に必要なもの

- ・ 十分な生計
- ・ 栄養のある食べ物
- ・ 災害からの保護設備
- ・ 十分な財

#### 健康

- ・ 身体の強さ
- ・ 快適さ
- ・ 清浄な水と空気

#### 良好な社会関係

- ・ 社会とのつながり
- ・ 互いの尊敬
- ・ 相互扶助

人間の選択と行動

個人の価値観や  
可能性に  
基づいた選択

Source: Millennium Ecosystem Assessment

矢印の色の濃さは、社会経済的な結びつきの強さ、  
矢印の太さは生態系サービスとの結びつきの強さを示す

# 例： ハチがいなくなると 財布を直撃？



受粉が ×

被害総額で150億ドル

(約1兆7000億円)との試算も

損なわれると？

# 生物多様性が必要な理由

- 便利： 生活の質、命のインフラ
- 存続： 次の世代のために  
(文化のダイバーシティを含む)
- 進化： 自己増殖 vs 性

海底  
命の起源

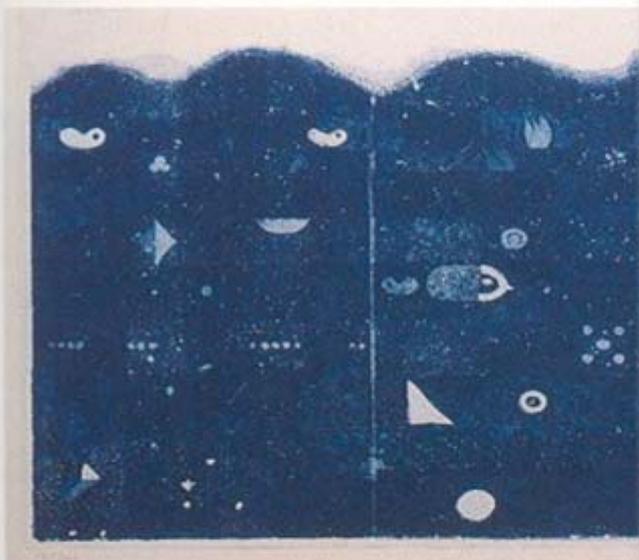


なぜ必要?

# 日本に もともとある価値観

春暁の海より星を釣りし夢

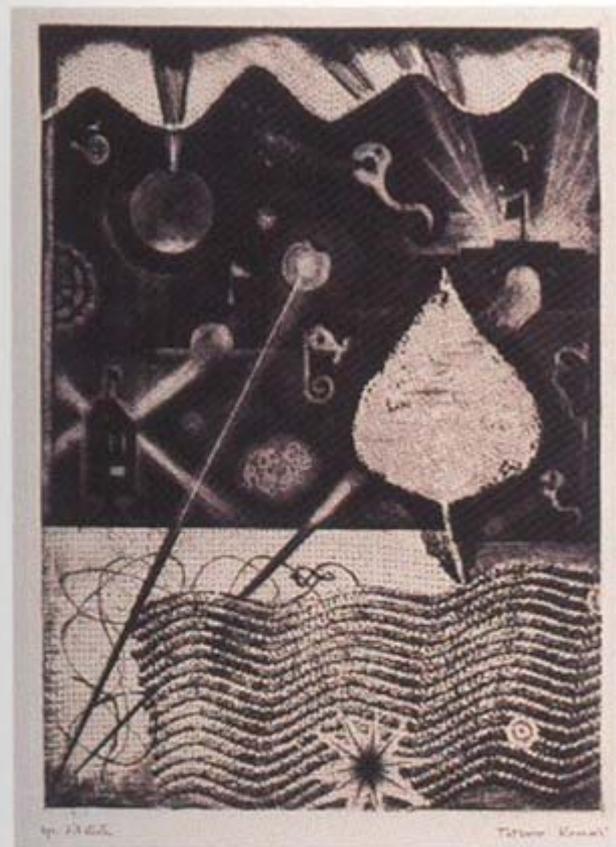
新作



《岩礁にて》 1970年 アクアチント(カラー) 24.3×

人もまた太初海棲桜貝

新作



《海底の祭》

1951年 メゾチント、ソフトグラウンドエッチング  
23.8×17.1 cm (作品63)

# 価値観は変遷する： 昔は多様性よりも生産性

Die Bahn **DB**

Fahrtziel *natur*  
Erholen. Erleben. Erhalten.

**[Waldduft in der Nase]**

Nationalpark Hainz

Eine Kooperation der Deutschen Bahn mit:



[www.fahrtziel-natur.de](http://www.fahrtziel-natur.de)



なぜ必要？

## 多くの場合 「義務色」が濃い（現状）

第三者意見で  
書かれたし、  
生物多様性で  
何かやるかなあ  
(広報)

遺伝子組換の  
実験もやりづらくなったが、  
法令遵守をアピールするか  
(技術部)

Win-Win で 行政・企業も多様性もメリットになるはず  
差別化のチャンスでもあるのでは。。。

# 行政・企業活動にとっても

義務: GRI/ 環境アセス(EIA) / 森林経営(SFM)の定義

リスクの分散: 調達時に

工学上リスク  
(発生率 x 被害の大きさ)  
よりも

**リスク認知と  
コミュニケーション**

(国や文化、個人的バイアス、  
価値観、教育で異なる)

価値: 多様な価値、雇用、文化、モチベーション

持続的な活動の基盤

# 本当は アピールのチャンス

無農薬のお茶を  
楽しんでもらおう!

ボン市のブース



製品のデザイン

会場

# 生体模倣（バイオミメティクス）



# 生体模倣 展示会場

COP9 ドイツ ボン での一場面

COP10では、どんな展示が？



水着の話

# COP コップ とは？

5月のCOP9 / 2010年に誘致が決定したCOP10

# いまさら聞けない！ 用語集

- シービーディー CBD  
生物多様性条約
- Convention on  
Biological Diversity
- コップ COP  
締約国会議
- Conference of the  
Parties (to the CBD)

# COP 締約国会議

- 最高決定機関

- 2年に一度開催

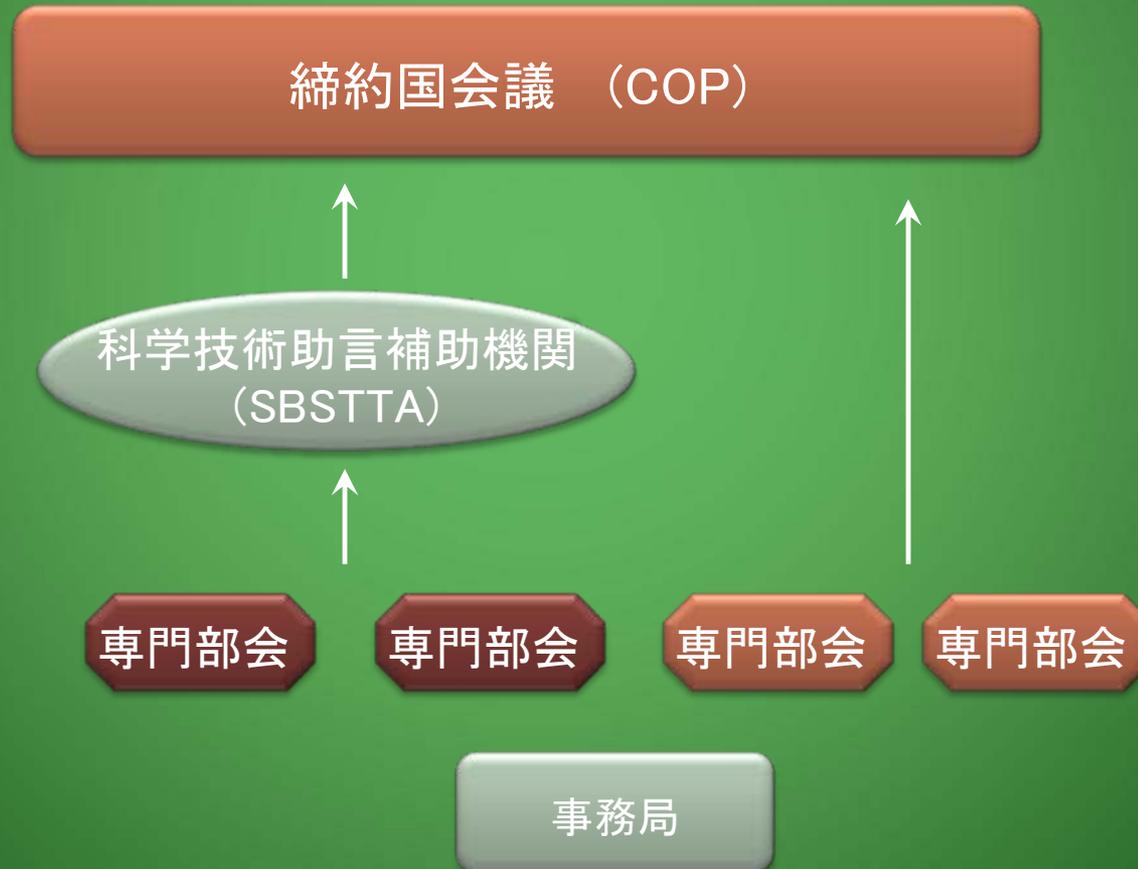
2010年は、第10回締約国会議

- 議長国：開催後から2年

2010年に開催 2010 -2012年に議長国

# 生物多様性条約の構造

189か国の条約国および欧州共同体(EC)



# 実施



政府  
国際機関  
市民社会  
民間セクター

ガイダンス



・作業計画  
・ガイドラインなど



MOP 締約国会議 (COP)

Two brown ovals, SBSTTA (blue oval), and four yellow ovals

SBSTTA

専門部会

事務局

CHM

参加



COPとは？

# COP議論の流れ

環境をまもろう！

熱帯雨林が大事



長く分かりづらい

主権を尊重しつつ、情報の共有を進め、新規の追加的予算があれば 新委員会の設置を検討

新委員会  
が必要

主権の  
尊重を!



情報共有を  
!

そんな  
予算はないよ

ただし、決議は190以上の国の総意という重み

# 多様な意見を尊重しつつ、 共同歩調をとる難しさ

自分たちにとって自明でも、  
同意や総意にいたるまで交渉

COPは分かった。

そもそも CBD 生物多様性条約は何をやるどころ？

# 生物多様性条約の目的

- 地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
- 生物資源を持続可能であるように利用すること
- 遺伝資源の利用から生ずる利益を公平かつ衡平に配分すること  
[略してABS]

(CBD 第1条)



持続可能な開発のための取り決め

## CBDの特色

### 発展途上国の積極的な参加

- ・ ABSなどにおいて積極的に発言

### 先住民の文化と生物多様性の関連性

- ・ 国連のフォーラムでは権利の宣言が採択
- ・ 洞爺湖サミットでは先住民サミット

# 作業計画 分野



ビジョン



基本方針



優先事項とターゲット



国家レベルにおける実施時のガイダンス



沿岸・海洋域



内陸水



森林



乾燥地  
及び  
半乾燥地



農業

山岳

島嶼

# 分野を横断する事項・課題



遺伝資源への  
アクセスと利益配分



持続可能な  
観光



伝統的知識  
8(j)



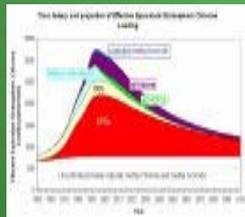
保護地域



外来種



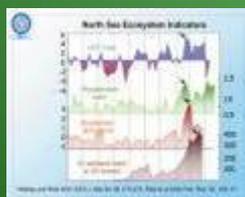
技術移転



科学的  
アセスメント



GTI  
地球分類学  
イニシアティブ



指数



教育と啓蒙

CBDとは？

# 生物多様性：損失の要因

## • 直接

- 生息の場の変化
- 気候変動
- 侵入的外来種
- 過剰な収穫
- 汚染（窒素や硫化物）

MAでは「農業」が最大の要因

## • 間接

- 経済的活動
- 人口（人口成長）
- 社会・政治的要因
- 文化・宗教的要因



# 生息地の変化

クイズ:

コウノトリがもどってくるには、何が必要？

# COP9の映像



# COP10

## 2010年をどうする？

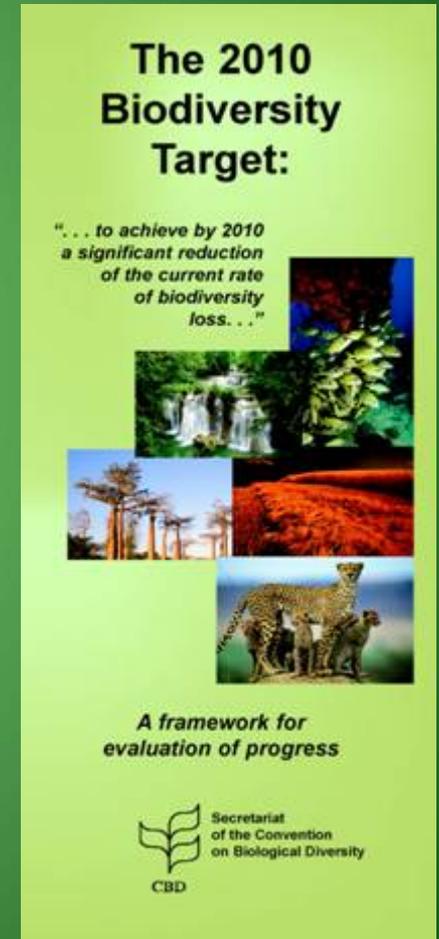
# 2010年は節目の年 三つの理由

- *2010年目標*
- *国際生物多様性の年*  
普及・啓蒙面でさまざまなイベント
- *ABSの国際制度*  
南北問題について国際制度を目的とする

# 2010年 目標

## 2010年までに生物多様性の 現在の損失速度を顕著に減少させる

- 世界、地域、国家レベルにおいて、貧困の緩和と地球上のすべての生命のために
- 2002年開催の生物多様性条約第6回締約国会議で採択された目標
- 持続可能な開発に関する世界首脳会議ヨハネスブルグ・サミット でも承認



# 国際生物多様性の年

- テーマは「発展と生物多様性」
- 展望の第3版 発表  
(地球規模生物多様性概況3)
- イベント： 5月22日生物多様性の日 植樹
- 移動博物館、ワールドカップと連携、アース・デイ

# 2010年は節目の年 三つの理由

- **2010年目標**
- **国際生物多様性の年**  
普及・啓蒙面でさまざまなイベント
- **ABSの国際制度**  
南北問題について国際制度を目的とする  
→ **なぜ 合意できないのか？**

なぜ、すぐに行動し、  
食い止められないのか？

# なぜ、なかなか食い止められないのか

- 保全 vs 利用・発展（南北問題）  
発展途上国は豊かになる権利も欲しい
- 政策—科学インターフェーズ  
（科学的なリスク不確実性・対話）

# 生物多様性の特色

- 発展途上国に偏在 ⇒ 条約には発展途上国が活発に参加  
熱帯雨林・マングローブなどに集中

# 南北の対立とABS

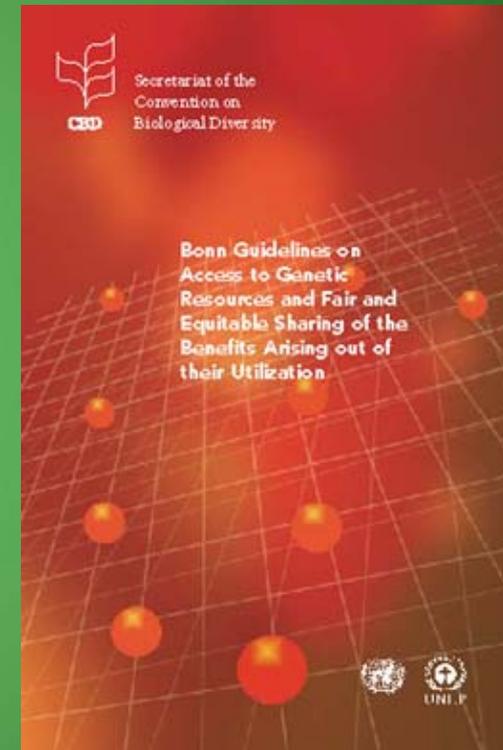
- 先進国や多国籍企業による原産国の遺伝子資源の収奪批判を反映

- 米国は批判的

(条約を批准しない理由の一つ)

# 遺伝資源へのアクセスと利益配分

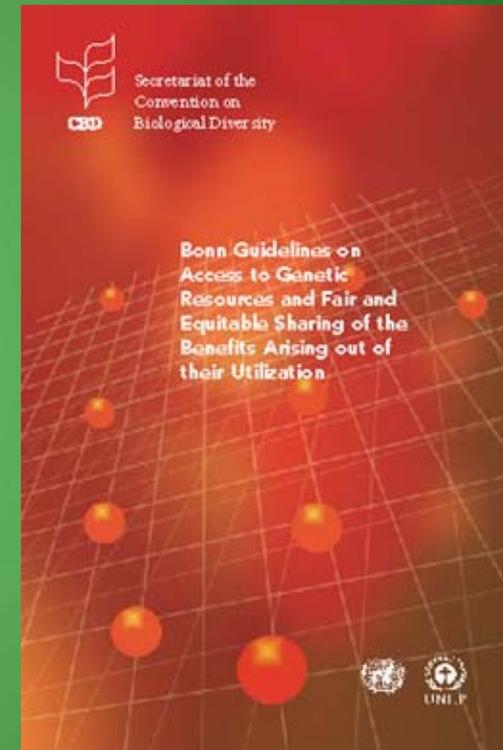
- 条約の三番目の目的
- 国家が主権を持ち、アクセスを決定する権利を持っていることを条約は認識してる
- 2002年 COP6 において  
ボンガイドラインとして採択
- ガイドラインなので法的拘束力はなし



# 遺伝資源へのアクセスと利益配分

国から国への遺伝子資源の移動  
二カ国間のアクセスの取り決め

- ✓ ガイダンスを提供している
- ✓ 締約国の相互に同意された条件と事前の情報に基づく合意 (PIC)が必要
- ✓ 現場レベルの情報共有
- ✓ 訓練・適正技術の移転を促進



なぜ、食い止められないのか

# なぜ、なかなか食い止められないのか

- 保全 vs 利用・発展（南北問題）  
発展途上国は豊かになる権利も欲しい
- 政策—科学インターフェイス  
（科学的なリスク不確実性・対話）

# 政策—科学インターフェイスとは？

意志決定を意義あるものにする目的で、情報の交換、共に進化すること、共同で知識を構築できるような、科学者と他のアクターの間係を可能にしていく社会的プロセス

van den Hove, 2007 p807

Koetz et al 2008 p506

# 危機が見えづらい

## つながる命

でも、**見えないつながりを 見せることが必要**

土壌のなかの多様性が、農業を支えている

都市部の食物自給率1%以下 生物多様性はインフラ

## じわじわ進行している

飛行機のビスがパラパラと落ちている

# SBSTTA 特色

- 1995年～2008年 13回 開催
- 条文25条 で設置
- 数百人～1500人弱 の規模
- 作業計画の開発・検討に貢献
- 11のAHTEG(アドホック専門家会合)設置  
[森林もその一つ]

# SBSTTA 特色 (続)

- COPでそのまま採択される勧告 60%
- 修正を経て採択 30%
- 採択されないものの多くは**財政・予算がらみ**

# SBSTTA 問題点

- 条文25条の目的にも関わらずミニCOPと化している(政治交渉が行われる)
- 会議中(In-session)のインプットが少ない事務局が準備するInter-session の文書が柱
- 他の科学プロセスとのつながりが弱い

# CBD組織上の論点

Office of Executive Secretary  
(OES)

Outreach and  
major groups  
(OMG)

- Education and public awareness
- Women, children, youth NGOs, local authorities, parliamentarians, Business
- Library and documentation service

Scientific, Technical and  
Technological Matters  
(STTM)

Thematic Area

Inland water /  
Marine

Agriculture / Forest

Dry & sub-humid  
lands

Cross-cutting issues

Invasive Alien species

Scientific assessments

Ecosystem approach

Indicators / 2010 Targets

Impact assessment

Global Taxonomy Initiative

Protected Areas / Climate  
Change

Social, economic  
and legal matters  
(SEL)

Implementation and  
Technical Support  
(ITS)

Resource management  
and conference service  
(RMCS)

EA/気候変動  
を兼任

森林などとの  
整合性を  
担当官が努力

# 今後の課題

# 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)

## COP10での会議参加者数・期間

参加者

190カ国の締約国、国連諸機関、NGO等、約7,000人が参加見込み

期間

約3週間

2010年  
10月11日  
開会 ←

3週間

→ 閉会  
2010年  
10月29日



COP9(ドイツ・ボン)会議場の様子

### MOP

(カルタヘナ議定書締約国会合)  
2010年10月11日～15日  
(5日間)

### COP

(生物多様性条約締約国会議)  
2010年10月18日～29日  
(12日間)

### 閣僚級会合

10月27日～29日  
(3日間)

### サイドイベント・ワークショップ等

(国際的問題・課題に関するもの)  
※出席者は会議出席者中心

# 地域からの行動（ローカルアクション）の展開

## 4 取組の推進と中長期ビジョン

2008～2009

2010 国連生物多様性年

2010以降

世界各地の取組

〈国連等の行事〉

COP10 MOP5

国際自治体会議

NGO/NPO  
の交流  
付帯行事

生物多様性  
戦略発表  
ローカルアクション

〈地域の独自企画〉

- 地域としての共同企画
- 多様な主体の独自企画

- 発信… 私たちの地域のことを伝える。
- 受信… 他の地域のことを聞く。
- 交流… 課題・展望を共有する。

生物多様性条約の  
三つの目的

- 多様な生物と生息環境保全
- 生物資源の持続可能な利用
- 利益の公正・衡平な配分

あいち・なごやの三つの目標

- 自然と共生する地域づくり  
(地域の自然の保全・再生)
- 生物資源を持続可能なかたちで  
利用するくらし・産業づくり
- 広域的な関係づくり  
(上下河川連携、産地消費者連携、  
国際連携)

あいち・なごやの取組

- ・ あいち自然環境保全戦略
- ・ 生物多様性なごや戦略

〈多様な主体の協働〉

市民、NGO/NPO、企業  
大学、農林漁業者  
専門家、中部圏行政機関

持続可能な社会  
(自然共生社会+低炭素社会+循環型社会)

# COP10に向けての政治的課題

南北の対話、新興国との対話

・火種 ABS バイオ燃料

国際環境NGOとの対話:

➤イニシアティブのなさ

➤基金への拠出

小さな成功を積み重ねて、互いに信用を

# COP10に向けての科学的課題

## COP10 集中的に検討される事項:

- ・ 沿岸・海洋域
- ・ 内陸水
- ・ 持続可能な利用  
(ちなみにCOP9では、農業、林業)

## 経済分野

「生物多様性のサービス」に関わる経済的価値

# 外国の方が 期待する 日本・なごや の役割

- 便利なインフラ設備（空港も近い）
- ものづくり 災害復興の経験（自然の再生技術）
- 人口の規模 大きすぎず 他国の参考・模範に
- post-2010目標 ABS の国際制度

# 今後の課題

- ・ コミュニケーション

模範事例・ガイドラインの情報発信・文化摩擦のリスクと相互理解のチャンス

## 自治体・産業界の政策への関与

(生物多様性基本法, COP9の決議 基本法13条)

# 今後の行動

- ・ セクターを越えた対話を！

生物多様性条約 は 環境保全家の集いではない（保全・利用・配分）

「メインストリーミング」

- 発展途上国との国際協力の実績のアピール

COP9ドイツでは GTZが 会議の運営で中心的役割

（ABSの関連プロジェクトも運営）

- ・ NGO/企業もバラバラではなく、意見を集約化

（COPでは、組織の林立・重複は避けるべき）

ご清聴ありがとうございました



香坂 玲

電子メール:

[kikori36@gmail.com](mailto:kikori36@gmail.com)

